

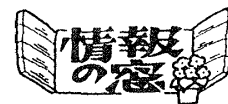
工業大学名誉教授)による乾杯の音頭を聞き逃してしまっ
た。ルポ担当者なのに申し訳ありません! 開始
1時間程経ったところ香田正人氏(筑波大学)による
APORS 参加者の紹介があり、シドニー・オリンピ
ック開催中ということでオーストラリア人参加者が代表
してユーモア溢れるスピーチをされた。このころまで
には95人分用意されていたという食事もしっかり参
加者の胃袋へ納まり、宴は終盤へと向かっていった。
最後に今野浩実行委員長(東京工業大学)の、南北
線・目黒線開通の話やオフレコ話(ここに書けません、
御免なさい)も交えた挨拶で、なごやかな雰囲気にか
まれたままお開きとなった。

研究会の前日に営団地下鉄南北線・都営三田線と東
急目黒線の相互乗り入れが開始され、東工大大岡山キ

ャンパスと東京大学(本郷)、東京理科大学(飯田橋)、
上智大学(四ツ谷)などの山手線内側にある大学、あ
るいは大手町、日比谷といったオフィス街とが1つの
路線で結ばれることになった。実際今回のシンポジウ
ムおよび研究会に出席された方でこの路線の恩恵を受
けた参加者もいらっしゃるだろう。今回の路線拡
充を機に、産・官・学を超えた交流がますます盛ん
になることを期待したい。

末筆ながら、急なお願いにもかかわらず、快く本稿
執筆の協力をして頂いた福田光浩氏(東京工業大学)、
高橋美佐氏(東京工業大学)、加藤憲一氏(東京工業
大学)、梅澤正史氏(慶應義塾大学)、川代尚哉氏(東
京工業大学)、大井洋子氏(東京工業大学)の諸氏に
感謝申し上げたい。

第3回国際 APORS セッションルポ



牧本 直樹 (筑波大学)

秋季研究発表会初日の午前10時から午後6時まで、
第3回国際 APORS セッションが開催された。これ
は、学会創立40周年記念事業「OR 振興のための国
際協力事業」(支援:大和ハウス工業株)の一環とし
て2年前から行われており、APORS 加盟の各学会か
ら若手研究者を招聘し、研究発表会への参加・講演を
通して OR の国際交流を支援するものである。第1回
は海外5学会5名、第2回は日本を含む8学会8名と
年々規模を拡大し、今回は初めて APORS 加盟の全
学会から講演者を招聘することができた。中でも、オ
ーストラリア OR 学会からは、趣旨に賛同して自学会
負担でさらに1名を派遣したいとの申し出を受け、2
名の参加となった。3回目を迎え、この事業への理解
と期待が高まっていることを嬉しく思った次第である。

3セッションに分けて行われた講演はいずれも特色
のあるもので、聴衆も交えて活発な議論が交わされた。
紙面の都合ですべてを紹介することはできないが、全
体としては、現実の問題やデータを扱った分析、理論
的な研究、およびそれらの中間的なもの、の3つがほ
ぼ同数という印象であった(講演者ならびに講演タイ
トル等の詳細については、学会 Web ページをご覧下



懇親会で挨拶する L. Churilov 氏

さい)。このうち、現実の問題を扱った分析としては、
L. Churilov 氏(Monash Univ., Australia)による病
院のヘルスケアマネジメントにおけるリソースプラン
ニングや、H. Ibrahim 氏(Univ. Utara Malaysia)の
クアラルンプール国際空港建設のプロジェクトマネジ
メントなどが挙げられる。ちなみに、Churilov 氏が

この問題に取り組んだのは、奥様が医師として勤務する病院から相談を受けたのがきっかけとのことで、彼によるとヘルスケアマネジメントの分野にはORを活用できる問題が他にもいろいろあるとの話であった。

S. Hill氏 (Curtin Univ. of Tech., Australia) と、A. Mason氏 (Univ. of Auckland, New Zealand) は、それぞれ大規模鉱山の採掘スケジュールと外洋ヨットレースにおけるルート選択に関する最適化手法を提案していた。いずれもお国柄を反映したテーマと美しいスライドで楽しい発表であった。また、L-H. Lee氏 (National Univ. of Singapore) と、S. Leung氏 (Wilbur Smith Assoc. Ltd., Hong Kong) は、ロジスティクスに関連する配送ルート選択問題を取り上げていた。これらも、面積が小さく貿易の中継基地という地域性の現れと言えるかもしれない。一方、最近話題の多いIT技術に関しては、J. Mercado氏 (Sky

Cab-Lenet Inc., Philippines) がプロバイダのネットワークデザインについて、また豊泉洋氏 (会津大学) がインターネットのデータ測定についてそれぞれ講演を行った。

発表会に先立ち、前日には東京工業大学100周年記念会館で歓迎会が開かれ、長谷川会長はじめ学会関係者との懇談を楽しんだ。また、翌日は大和ハウス工業(株)中部工場への見学会が行われた。参加者にとっては、日本の製造現場を見学するよい機会であったと思う。

最後に、このセッションの開催にあたってお世話になった方々、特に大和ハウス工業(株)の関係各位、ならびに今野委員長はじめ秋季研究発表会実行委員の皆様にご挨拶を申し上げます。なお、2001年は春季研究発表会にて第4回国際APORSセッションを開催予定です。多くの方々の参加をお待ちしています。